

ハイライトよねやま 96

(財)ロータリー米山記念奨学会
2008年2月13日発行

1. 寄付金速報 下半期の寄付状況

1月までの寄付金は、前年同期に比べて0.5%減、約530万円の減少でした。普通寄付金は1.8%減でしたが、特別寄付金は2カ月ぶりに増加し、0.2%増となりました。

1月は主に普通寄付金が納入される月であり、全クラブの81%にあたる1,884クラブからご納入いただきました。しかしながら、納入率がまだ約60%にとどまっているところも3地区あります。ご確認いただきまして、早めのご送金をよろしくお願い申し上げます。

2. 合格者が決定！ 各地区で奨学生採用面接が終わる

4月から新しく採用される米山奨学生の面接選考が各地区の選考委員会によって行われ、1,392名(クラブ支援奨学金14名を含む)の応募に対し、602名の合格が決定しました。

合格者を奨学金プログラム別にみると、博士・修士・学部課程奨学金が577名、クラブ支援奨学金が13名、地区奨励奨学金が12名です。このほか、海外学友会推薦奨学金2名、現地採用奨学金2名が3月中旬に決定します。地区奨励奨学金は、大学以外の高等教育機関を指定校とすることができる制度ですが、アジア学院(2550地区)、JASSO大阪日本語教育センター(2660地区)、PHD協会、神戸YMCA日本語学校(ともに2680地区)に加え、今年は新たに広島YMCA学院専門学校(2710地区)から合格者が誕生しました。

国籍・地域別では、中国:48.7%(前年度46.2%)、韓国:13.0%(15.5%)、台湾:6.3%(7.3%)、その他:32.1%(31.0%)となり、中国籍の学生が合格者全体で48.7%を占めるものの、合格率は36.1%と最も狭き門でした。なお、今後は国費奨学金合格による辞退などによって合格者の変動が見込まれるため、確定は3月下旬となります。

3. 第2780地区IMで米山学友が活躍



講演をする唐 偉氏

第2780地区(横浜市・川崎市以外の神奈川県)第4グループのインターシティミーティング(IM)が2008年1月26日(土) 県内にある寒川神社参集殿にて開催されました。テーマは「Let's Focus On よねやま(米山記念奨学事業に注目しよう)」。

山口利通ガバナー補佐の点鐘に続き、同地区学友会の元会長であり、現在は東京大学医学部の教官として研究・教育に携わっている唐 偉氏(中国/1997-99/東海大学/厚木中RC)が基調講演を行いました。唐氏は「米山奨学生になって初めて国際交流の大切さを知

り、私の人生が変わった」と自らの体験を語り、会場の感動を呼びました。

その後、台湾の学友2名がインターネットを通してディスカッションに参加するという、初めての試みが行われました。これは、スカイプという無料通信ソフトを使ったもので、台湾米山学友会理事長の阮 允恭氏と、台中文心RC会長の郭 錦堂氏がスクリーンに映し出され、会場では唐氏と米山カウンセラー経験者が壇上に上がり、全員でパネルディスカッションを行うというユニークなものです。文字通り臨場感あふれる国際的なIMとなり、新しい時代の到来を感じました。(事務局長 坂下博康)



会場に設置されたスクリーンから会議に参加した台湾学友の2人

4. 津波被災児の絵画集発行

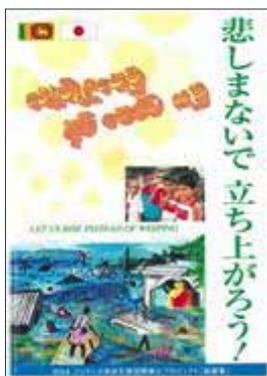
米山学友ニャーナランカーラさん

兵庫県伊丹市のスリランカ寺住職を務めるパナンウェラー・ニャーナランカーラさん(スリランカ/1992-94年/高野山大学/高野山RC)は、スリランカの子どもたちへの教育支援を行うNGO「スリジナラタナ社会福祉協会」日本本部理事長としても精力的に活動しています。

2004年12月に発生したインドネシア・スマトラ沖地震による大津波は、周辺諸国に未曾有の被害を与え、スリランカでも3万人以上の犠牲者を出しました。この恐ろしい津波の記憶を後世に残そうと、ニャーナさんは被災したスリランカ南部地方の子どもたちに津波の絵を描いてもらい、その絵画展を2005年夏から関西地区で延べ35回開催、マスコミや一般の人々から大きな反響を得ました。



和歌山RCの根来会長(左)とニャーナさん



「この絵を何とか本にして残したい」と考えたニャーナさんに、親交のあった和歌山ロータリークラブ(第2640地区)が協力して、昨年12月26日、絵画集『悲しまないで立ち上がろう!』が発刊されました。

和歌山RCではこの絵画集を1,500部発行し、うち1,000部をニャーナさんに贈呈。ニャーナさん自らスリランカに赴き、絵を描いた子どもたちに贈る予定です。

「ロータリーとのご縁で、今回、この絵画集を無事に発行できたことを本当にうれしく、ありがたく思います。『悲しまないで立ち上がろう!』という言葉は、災害も事件の一つととらえ前向きにあきらめないで生きていくという被災した子どもたちのメッセージです。日本にも地震や自然災害の被害で心に大きなショックを受ける人がたくさんいます。この本を通じて、スリランカの子どもたちのメッセージを多くの日本人々、とりわけ日本の子どもたちに届けたいと思っています」とニャーナさん。和歌山RCの根来孝夫会長も「和歌山の人々にとっても津波は決して他人事ではありません。この冊子はわれわれにも津波への警鐘となり、勇気と希望を与えてくれるものと思います」と、語っています。

この絵画集(A5判・64ページ/収録絵画数90点)は希望者に1冊1,000円で販売。その収益はニャーナさんのNGOを通じて、津波で親を亡くした子どもたちの教育支援に充てられます。購入希望の方は、和歌山RC(TEL:073-432-1681)までお問い合わせください。

また、ニャーナランカーラさんの活動については、下記ホームページをご覧ください。

スリジナラタナ社会福祉協会(TEL&FAX:072-773-1161) <http://www.geocities.jp/lankarajp/>

もうご回答いただきましたか?



米山学友の消息調査

当会では、これまでに米山奨学生をお世話いただいた全クラブに対し、昨年より「米山学友の消息調査」を実施しています。1月16日現在で、学友総数13,092名のうち約半数についてご回答をいただきましたが、引き続き情報をお待ちしています。

この調査は、クラブでどの程度の情報をお持ちなのかということを知るのも目的の一つです。「もう連絡をとっていない」「今、何をしているか知らない」という場合も、その旨をご回答くださいますようお願い致します。